

「防災」。いま、考えよう

— 天災は忘れたころにやってくる —

大きな自然災害は、人々がその恐ろしさを忘れたころに、また襲ってきます。だから、油断は禁物。日ごろから用心を怠らないようにしましょう。



● 昨年の台風18号で増水した汐川。豊橋鉄道の鉄橋も冠水(写真・川岸自主防災会提供)

天 災と聞いて、まず思い浮かぶのが「地震」と「風水害」ではないでしょうか。

地震 昭和20年(1945年)の三河地震(推定震度5〜6)以来、田原市に大きな被害をもたらした地震は発生していません。そのため、大きな地震を体験した人が少なくなり、語り継ぐことが難しくなってきました。

心配される東海地震や東南海地震が発生したら、田原市の大部分で震度6弱〜6強の揺れが起こるといわれています。したがって、地震の大きさを想定した対策を行う必要があります。

風水害 まだ記憶に新しい昨年10月の台風18号。昭和34年の伊勢湾台風並の大型台風で、降雨は少なかつたものの、予想をはるかに越える強風と高潮が発生し、田原市に大きな被害をもたらしました。

今後、台風は大型化すると予想されています。昨年の台風被害を教訓に、今まで以上に注意が必要となります。

三河地震の記憶



- 道が割れて、家が倒れていた。(70代男性)
- 大きな地震のあと、

いつも揺すっていた。隣の家は倒れて、庭にわら小屋を作って暮らした。いつ地震がくるか不安だったので、わが家も小屋で生活した。(70代女性)

地震や台風の大さをイメージ

地震 震度6弱〜6強の地震が起こった場合の揺れは次のとおりです。

震度	状態
6弱	<ul style="list-style-type: none"> ・立っていることが困難 ・固定していない家具が移動・転倒したり、ドアが開かなくなったりする
6強	<ul style="list-style-type: none"> ・立てない。はわないと移動できない ・固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる

風水害 昨年の台風18号では、次のような現象が起こりました。

強さ	状態
最大風速 23.3m/s 降水量 19.5mm/h	<ul style="list-style-type: none"> ・つかまっていけないと転倒する ・温室やハウスが飛び ・信号機が曲がる。街路樹が倒れる ・シャッターが壊れる ・看板や物が飛び、窓ガラスを割る ・室内でも話し声がよく聞こえない